健康守るため―＊受けよう!!市民健診

健康を守るには、日頃の予防が大切です。市では、今年も四月から七月まで「市民健康診断」を市内各地で実施します。

〝自分だけは大丈夫〟と安心せずに進んで受診し、健康管理に役立ててください。

健康状態確認に欠かせない健診

市民健診では、結核・肺がんの早期発見のために胸部レントゲンを、また糖尿病や腎蔵病・高血圧の発見のために尿検査と血圧測定を実施します。検診後、要注意の皆さんには、それぞれ精密検診を受けてもらいます。一年に一度はレントゲン検診を受けることになっています。職場や学校、医院などで受ける機会のない方は、健診を受け、健康状態を確認してください。

最近、中高年齢の方や長い間レントゲンを受けなかった方に結核の発病が増えています。家族そろって忘れずに受けてください。

なお今までは、満六十五歳以上の方は、老人健康診査記録票を持参して市内の医院で尿検査、血圧測定などの検診を受けていましたが、今年からレントゲン検診と一緒に市民健診の会場で受けてもらうことになりました。

日程確かめて進んで受診を

四月の「市民健診」の日程は上の表のとおりです。ご自分の地域の日程を確かめてお出かけください。当日、都合の悪い方は、どの会場でも受けられます。また七月中旬には夜間の健診も計画しています。

受診の際は、前もって配布される「市民健康診断のお知らせ」の日程表の下についている「受診票」に住所、氏名などを記入のうえ、ご持参ください。検診の結果、異常が発見された方には一か月以内に連絡しますが、異常のない方には通知はいきません。ご承知おきください。

なお健診を受けられない方は、お手数でも「欠診届」に記入して保健課、または健診会場に提出してください。また電話で連絡する場合は、市役所保健課（☎4―二一一一内線二一三）へどうぞ。

4月の健診日程表

日	会場	時間	該当町内
18	市之瀬小学校	9：30～12：00	市之瀬、覚路津
	三枚潟公会堂	1：00～3：00	三枚潟、三津屋、長割
25	小口保育所	9：30～12：00	小口
	草水公会堂	1：00～3：00	草水町1、2、3丁目

忘れず受けよう　春の畜犬登録と狂犬病予防注射

昭和五十八年度の「畜犬登録」と第一回の「狂犬病予防注射」が、四月十九日から右下の表のとおり始まります。

生後九十一日以上の犬は、毎年一回の登録と春、秋の年二回、注射を受けなければならないことになっています。登録をしなかったり、予防注射をしないでいると三万円以下の罰金（放し飼い犬は一万円以下の罰金）、または科料に処せられます。登録と予防注射を忘れないようご注意ください。

■手数料

畜犬登録……二、一〇〇円
予防注射……一、二五〇円
注射済票……二六〇円

■お願い

当日は印鑑をご持参ください。また会場が混雑しますので、犬を制御できる人が連れてきてください。

なお会場での不用犬の引き取りはいたしません。

不用犬の引き取りについて

□定期の引き取り

市役所市民課に用意してある引き取り申請書に所定の事項を記入し、収入証紙（千円）を貼ってください。引き取り場所は、当分の間新津保健所になります。引き取り日は、四月八日、二十二日、五月四日、六月一日、七月六日、八月三日、九月七日、十月七日の予定で、時間は午前九時から九時三十分までです。原則として引き取る犬は、登録されていなければなりません。

なお犬は飼育者が連れて行ってください。

□不定期の引き取り

指定の引き取り日以外は、飼育者が県央動物保護管理センター（西蒲原郡中之口村三ツ門　☎〇二五三―75―五一四〇）へ搬入してください。この場合も市役所市民課に用意してある引き取り申請書に記入し、収入証紙（千円）を貼ってください。

県央動物保護管理センターへ搬入する場合は、木曜日の午前九時から午後四時までにお願いします。

苦情の受け付けは環境整備課に変更

苦情は今まで市役所保健課で受け付けていましたが、今後は市役所環境整備課（☎4―八三三七）で受け付けます。月二回程度、動物保護管理センターの指導班がまわり、苦情を処理します。

狂犬病予防注射の日程表

月日	会場	時間
4・19（火）	結公会堂	9：30～10：30
	食肉検査所前	11：00～12：00
	車場西光寺	13：00～13：30
	覚路津神社	14：00～14：30
	小合農協事務所前	15：00～16：00
4・20（水）	飯柳公会堂	10：00～11：00
	新関農協裏	11：30～12：00
	新津農協大安寺支所	13：00～14：00
	新津農協七日町支所	14：30～15：00
4・22（金）	金津農協前	10：00～11：30
	老人福祉センター	13：00～14：30
4・23（土）	日宝町市民研修所	10：00～11：30
	新津保健所	13：00～14：30

お買物、ご用命は市内で

新津5農協葬祭事業に協力（指定仕出し店）料理のご注文はあなたのお好きなお店にどうぞ

魚中　新野　新栄町　(2)一二六八
魚勝　野水町二　(2)一〇一九
キクヤ　秋葉一　(2)三九八
熊谷　中村　(2)一二一九
味の大倉　新町一　(2)五四〇
今井　新金沢町　(2)〇八七〇
竹内　古田　(4)四六九三
小浦　善道町二　(2)三六六
井熊　本町四　(2)〇〇三八
宮正　中沢町　(2)三〇〇四
なしだ　山谷町一　(2)三五三三
金波　本町二　(2)〇五一七
田沢屋　本町三　(2)〇二五五
事務所（ハイランク）　(4)〇一・二八五
(2)三一一三

市民サービスをモットーの新津仕出し協同組合

大正夜話 (84)

『主婦之友』と『婦人倶楽部』(二)

阿達義雄

歳の瀬も迫ってきた十二月廿二日から三日間、私は宿の本郷会館からお茶の水図書館に通い、定められた一室を唯一人で占領して、創立以来の『主婦之友』を次々と運んで貰い、前から見当をつけて置いた要所要所を読んでみたり、所々のメモをとったりした。

私が最も期待していたのは、大正六年創刊当時の『主婦之友』の美麗な表紙であり、このカラー写真を撮って、女子短大の親しい者にやる約束までしていたのであったが、何しろ創立以来、既に七十年近くになっているので、主婦之友社でも創刊当時のものの原本の入手が困難であったらしく、ゼロックスで複写したものが多かった。

私が、この図書館で確認したり、調査しようと考えていたことは、

(1)創刊号の定価は15銭で、第二号から『婦人世界』や『婦女界』に倣って17銭にされたはずであるが、果たして、その通りか否か。

(2)各年各号の定価や特価とその頁数。

(3)『講談社の歩んだ五十年』を見ると、大正九年十月に『婦人倶楽部』が創刊された時、「同業者は恐るべき強敵として畏怖したところの（婦人倶楽部）創刊号」と記しているが、『主婦之友』は『婦人倶楽部』に対し、その後、どのような対策を以って臨んだか。

などであった。

＊　＊　＊

『主婦之友』の創刊は大正六年三月であった。この頃には既に『婦人画報』（30銭）、『婦人公論』（23銭）、『婦人之友』（20銭）、『婦人世界』（17銭）、『婦女界』（17銭）の諸雑誌が鎬を削って戦っていたので、この間に処して新婦人雑誌として生き抜いて行くことは容易なことではなかった。

この時、『主婦之友』が目ざしたのは、『婦人画報』や『婦人公論』のようなハイクラスの婦人雑誌ではなく、家庭婦人に関心の深い結婚・育児・家事・美容・療養などの実用記事と、通俗小説、読み物とをミックスにした雑誌であった。それに当時は、化粧品・服飾品などの誌上広告がデパートの役目をなしていたように思われる。すなわち主婦之友社の代理部が右の発展の結果であろう。

『主婦之友』創刊の際は、企画も編集も営業も唯一人の石川武美によって行なわれ、その創刊号が百二十頁15銭という、他の婦人誌より安い定価で売り出されたのも、誌上広告による広告費に依存することが多かったからである。

右のような企画や雑誌の内容が一般家庭婦人の好みに投じたためであろうか、創刊号の一万部は忽ち売り切れ、三十三ケ月後の大正八年の末の発行部数は七万七、八〇〇部、『婦人倶楽部』の創刊された大正九年、その九年の暮における『主婦之友』の発行部数は十六万部にも達していた。

この間、大正三年勃発の第一次大戦の影響や大正七年の米騒動などのため、大衆婦人雑誌の定価も、しばしば値上げされ、大正九年九月、即ち、『婦人倶楽部』創刊の直前の定価は、『婦人之友』『婦人世界』『婦女界』、『主婦之友』は40銭となり、『婦人公論』（50銭）、『婦人画報』は70銭となっていた。

ところが、この年の十月に既に『雄弁』『講談倶楽部』『少年倶楽部』『面白倶楽部』等の諸雑誌で、雑誌発行の経験と実績をもつ講談社から『婦人くらぶ』（十年四月から『婦人倶楽部』に改める）が創刊され、この創刊号の頁は二百二十八頁で、定価は他の大衆婦人雑誌の定価40銭の倍額の80銭となっていたので、他の婦人雑誌の一大脅威となった。

なお、ここに注意すべきは、大正九年三月以降には、戦後における値上げの反動として経済恐慌が起こり、殆んどあらゆる商品が暴落していた時であった。

右の講談社の『婦人倶楽部』の攻勢の矢表に立たされたのは、当時、発行部数の最も多かった『主婦之友』であって、他の婦人雑誌などは眼中になかったようである。

『婦人倶楽部』の進出に対し、『主婦之友』における重大対策と考えられることは、愛読者に「新流行の夏半襟を無料進呈」という企画であろう。

このことは、大正十年六月号の目次の欄外に見られるが、なお、「本文第一一六頁と原色版口絵を参照」とあり、この夏半襟は原色版口絵に示され、本文一一六頁の〔上等の半襟〕という見出しの所を読んでみると、

――『主婦之友』は創刊以来満四年余の歳月を経ました。……此の短かい歳月の間に拘らず、異常なる読者の同情の力は『主婦之友』をして今日の地位を得させてくださいました。

本誌今日の発行部数は、三十万と称する者もあれば、三十五万、または四十万といふ人もあります。発行部数については暫く皆様の想像にお委せしますが、とにかく東洋一の発行部数を有する雑誌となり得たことだけは、責任を以て確言いたします。

私共は本誌今日の地位を思ふ毎に、皆様の御同情を感謝せずにはゐられません。

つきましては、私共の感謝の微意を表する一端として、此たび斯ういふ方法を企てました。実は読者全体に何等かの方法で景品（プレミアム）を贈呈したいのですが、適当の方法を思ひつきませぬから、このたびは本誌の直接購読者だけに限り試みることにいたしました。

（新潟大学名誉教授）

お買物、ご用命は市内で

4月生募集中

現代にふさわしいモダンな調理室に変身！
楽しく料理を作り、楽しく会食！

親睦会・グループ活動などにも教室をご利用下さい。（少人数可）

新津料理学校　滝谷町　☎2-5000

クラス名	月回数	授業時間
家庭科A	4回	㊐水曜10:00～12:00 ㊏木曜6:45～8:45 金曜6:00～8:00
家庭科B	2回	上記のクラスを選択
お菓子とスナック教室	1回	第4火曜㊐10:00～12:00 ㊏6:30～8:30
ジュニア料理教室	1回	第2土曜 1:30～3:30